

15 圏域の設定と施設再配置の検討

◎ 設定のポイント

- ◆ 市の生活圏と市民センターの偏在性
市では特色ある6つの地域に市民センターが拠点となるよう配置
ただ、現状の配置ではほとんどが都市部に偏っている
- ◆ 高齢者の移動に配慮
一般的な生活上の行動範囲は概ね1 kmまで
山手にも拠点となる施設配置が必要

◎ 施設再配置の考え

- ◆ 削減ばかりの視点ではなく、地域の事情を考えた適正配置
大沢山荘、葛城上地区公民館は地域に唯一の公共施設

- ◆ 圏域ごとに拠点施設を配置

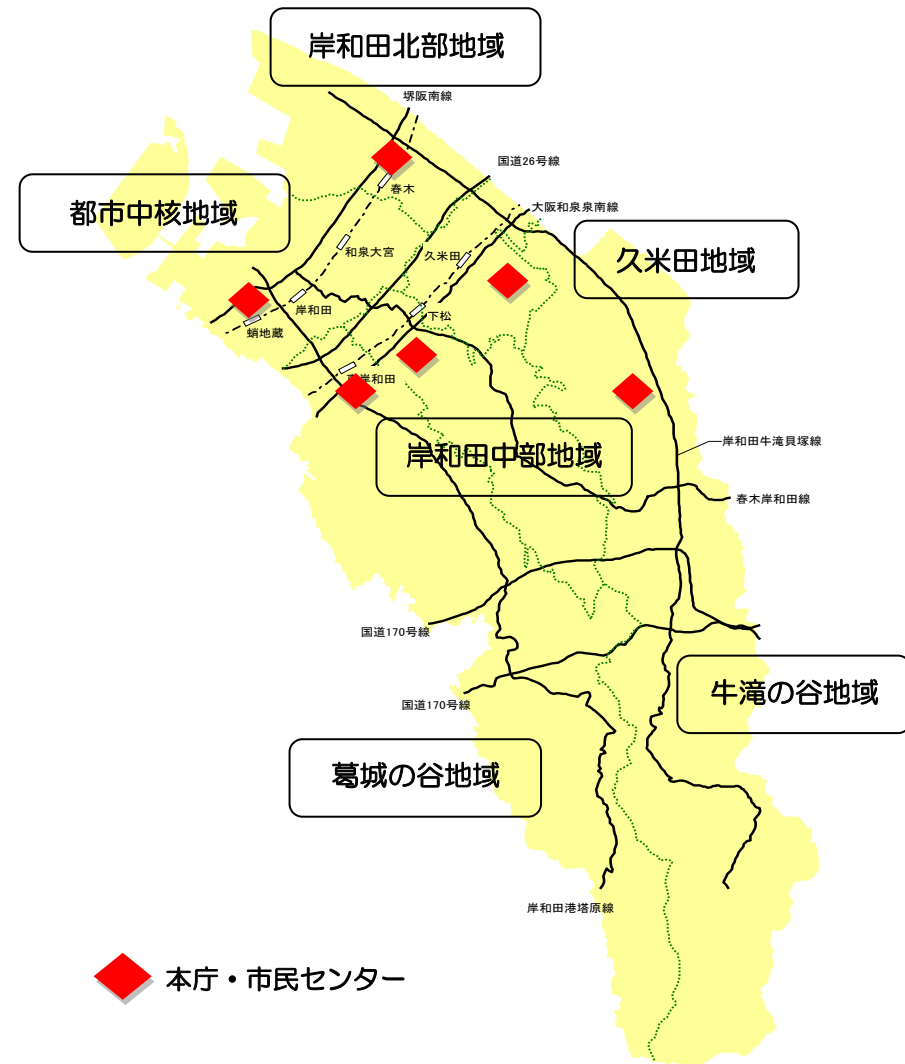
学校、公民館、その他



まちづくり市民懇話会でワークショップを開催

※まちづくり市民懇話会とは、
行政及び市民の今後の活動の参考となるアイデアを、市民自らが考え
岸和田のまちをよりよい方向に導くことを目的とした意見交換の場。
岸和田市まちづくりビジョン（第4次総合計画）及び岸和田市総合戦略
の進行管理が主な目的。

総合計画で位置付けられている「6つの地域」



◆ 本庁・市民センター

■まちづくり市民懇話会の開催内容

開催日

平成 28 年 9 月 21 日（水）

テーマ

『地域における公共施設について』

内容

岸和田市の公共施設の「学校施設」と「公民館」の主に 2 つの用途について意見交換を行った。

それぞれの用途ごとに①課題 ②大事なこと ③将来のあるべき姿 の 3 点について意見を出した。

設備や運営方法、周辺環境や地域性など幅広い視点から、「建物」と繋げて考えてもらった。

最後に、「将来に向け自分たちができること」は何かがあるか意見を出してもらった。

公共施設に関する市の取組みに対して、共に考えてもらえる意識の高い市民の方々にご意見をいただいた。（※右表参照 主な意見を抜粋）

ねらい

岸和田市の公共施設の現状を周知し、施設を全体的に縮減の方向で見直していかなければならないという厳しい状況の中でも発想の転換をし、市民が自ら考え、行動し、創意工夫で乗り切られるという前向きにとらえて考えてもらえるよう意識づける。

また、学校施設や公民館の場合は、地域との関係を考えてコミュニティづくり・交流促進を図っていくために、どう複合化・再配置をしていけば良いのかということを検討する際の材料とする。

公共施設に関する市の取組みに対して、共に考えてもらえるような意識の高い市民を探し出す。

「将来に向け自分たちができること」の中で、自らが積極的に参加し、周りを巻き込んでいくように促し、公共施設への関心を継続してもらう。

参加人数

11 名
◎ 3 グループに班分け
（各テーブルに市民 3 ～ 4 名＋職員 2 名）

	学校施設	公民館
①課題	・少子化 ・空き教室が増えている ・夜間の利用がない ・閉鎖的（なんで？）→個人情報 ・警備が厳しい。複合化しにくい ・教育現場との垣根 ・子供が卒業したら行く機会がない ・組織内で引き継ぐがうまくいってなく、コミュニティ同士の連携がうまくいってない	・駐輪、駐車場スペースが狭い ・飲食の制限がある ・選挙のときしか行かない場所 ・利用してなかったら、「ここって何の施設かな？」と思う。（自分も入っていいのかわからない） ・古い ・いつでも、どこでも、誰でも公民館の概念が失われている ・収益活動ができていない
②大事なこと	・子どもの安心・安全 ・大人の都合でなく、子どもの視点も必要 ・地域の人に関わること ・本当の意味で「学校」と「地域」と「家庭」の連携が必要 ・学校が「地域の拠点」になれば理想的。地域の絆、人のつながりが出来る。	・集いの場 ・地域の財産 ・活発な講座あり ・ボランティア ・民間との連携が必要 ・地域担当の職員も必要（館長だけではダメ） ・福祉等、他部門と連携
③将来のあるべき姿	・土日祝の開放 ・廃校とする ・空き教室の活用 担い手は先生ではない ◆地域の方による子どもたちへの講座（例：ライフデザイン教育） ◆公民館の一部の機能（例：公民館まつりを学校で） ◆学童保育として活用など（例：民間委託） ◆大学が活用、水・非常食を備蓄 など 学校、公民館、町会館をトータルコーディネートする。「地域ソーシャルワーカー」を設置して、地域ごとに特色を出して運営してほしい。	・みんなが集う場所（たて割りダメ） ・稼働率 100% ・受益者負担を導入 ・講座にお金をとる（有料） ・公民館、町会館等に専門職員を（地域コーディネーター） ・公民館機能を残しながら、<u>他の機能</u>を付与する。 ↓ ◆コミュニティの場 ◆販売をする部屋

↓『③将来のあるべき姿』に向けて

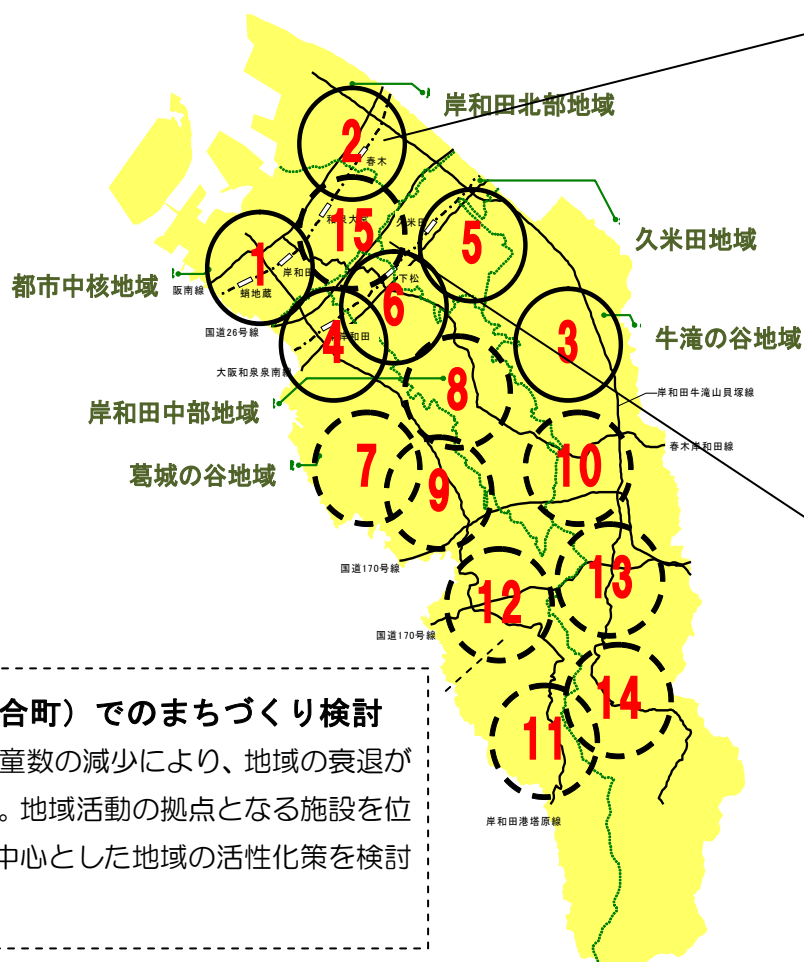
将来に向けて自分たちが	・岸和田らしい教育（祭り以外） ・しつけ ・定年後の市民が学校との関わりに。昔の遊びを伝える役割を持つ。（報酬必要） ・空き教室の活用の担い手になる ・“地域人”としての自覚 公民館や学校の関係者（先生等）と市民でコミュニケーションをよくとる。行政はたて割りをなくす。	・利用する ・町会単位で協力作り ・市民から希望を聞く講座 ・各市民（町民）が意識をもつ ・地域への参加。民の力を活かす→町会
-------------	---	---

～ 圏域ごとに議論するために ～

	実施月	テーマ	目 的
H28	平成 28 年 5 月 市全域からの自由参加	「まちネット」で懇話 (テーマ) ～ 公共施設を最適化すること ～	課題や展望についてメンバーと意見交換し、共有認識を図り、自主的な議論が起きるきっかけを作る。
	平成 28 年 9 月 「まちづくり市民懇話会」 公募市民による参加者が対象	「まちづくり市民懇話会」でグループ討議 (議 題) 地域における公共施設について ～ 学校施設、公民館の用途を考える ～	総合戦略に掲げた目標を達成するための 1 つのテーマとして本問題を取り上げ、メンバーとの議論により共有認識を図り、自主的な議論が起きるきっかけを作る。
	平成 28 年 12 月 ～ 第 2 圏域（春木駅周辺地域） 校区役員、住民が対象	ワークショップの実施 （計 4 回予定） (テーマ) 春木地区の公共施設最適化を考える	春木駅周辺のまちづくりにおいて、公共施設が圏域内で最も多いこの地域で、地域住民の視点から見た施設の再編モデルを提案してもらう。
H29	第●圏域、第▲圏域	ワークショップの実施 「まちネット」「懇話会」等に参加	圏域ごとに地域の特色が異なるため、地域から見た施設の再編モデルを提案してもらう。
H30～	引き続き、圏域ごとの検討	ワークショップの実施 「まちネット」「懇話会」等に参加	

◎ 圏域ごとの動き

岸和田市では以下の圏域内で、地域のまちづくりや公共施設の再配置について検討しています。



東葛城地区（河合町）でのまちづくり検討

少子化による児童数の減少により、地域の衰退が懸念されている。地域活動の拠点となる施設を位置付け、そこを中心とした地域の活性化策を検討する。

① 平成 28 年 6 月～

「春木駅周辺まちづくり懇話会」

春木駅周辺地区のまちづくり整備を進めるため、地域住民との懇話会を開催し、実現に向けての構想をたてる。

② 城北地区周辺の施設整備

城北地区公民館の老朽化への対応にあたり、隣接の城北保育園、城北幼稚園、城北プールを含めた、地域一体の整備を検討する。

平成 28 年 5 月～

旧サン・アビリティーズの複合施設化を検討

機能移転した旧施設に、老朽化している大宮青少年会館と女性センターの機能を移転し、複合化を検討する。

■ は実施中 □ は未実施